

令和8年度

島根大学大学院医学系研究科
医科学専攻（博士課程）

学 生 募 集 要 項

入学案内

島根大学大学院医学系研究科

目 次

ページ

アドミッション・ポリシー	1
カリキュラム・ポリシー	1
ディプロマ・ポリシー	3

学生募集要項（第 1 次募集・第 2 次募集）

1 募 集 人 員	5
2 出 願 資 格	5
3 出 願 手 続	6
4 入 試 方 法	8
5 合 格 者 発 表	9
6 入 学 手 続	9
7 入 試 成 績 の 提 供	9

入学案内

1 目 的	11
2 修 業 年 限	11
3 大学院設置基準第 14 条による教育方法の特例	11
4 専攻の概要並びに研究指導教員及び主たる研究内容	11
5 履 修 方 法	18
6 学 位 授 与	18
7 長 期 履 修 制 度	19
8 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度	19
9 奨 学 金 制 度	19
10 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険	20
11 個 人 情 報 の 取 扱 い	20

入学者受入れの方針 AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像（入学前に期待される学修内容）

島根大学が推進する地域基盤型教育と地域課題解決型研究に積極的に参加し、医学に求められる高度な専門知識・技術及び世界に通用する研究能力を備えた医師／医学研究者を目指す意欲にあふれる学生を求めています。

そのため、博士課程の教育を受けるのにふさわしい医学、医療、医科学の基礎知識と応用力及び英語の基礎学力とプレゼンテーション能力ならびに高い倫理観を備え、かつ明確な目的意識を持ち自ら考え行動できる学習意欲の高い学生を求めます。

◆入学者選抜の基本方針（評価方法とその扱い方）

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、次のとおり入学者選抜試験を行い、審査結果を総合的に判断し評価します。

1. 一般入試、社会人入試：

（筆記試験（英語A、英語Bの2科目）、口頭試問（面接）、出願書類を総合して評価）

各選抜方法と求める力（能力、適性）を対応表にして記載しています。

選抜方法	大学院で学ぶために必要な基礎学力及び専門的な知識	専攻領域での学習及び研究を遂行するための能力や資質	専攻領域に対する明確な志望動機や入学後の研究意欲
筆記試験（英語A、B）	○		
口頭試問（面接）		○	○
成績証明書	○		
推薦書、研究・臨床経験概要、研究業績目録（社会人入試のみ）		○	

教育課程編成・実施の方針 CP（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程の編成の方針

1. 医学系研究科医科学専攻博士課程では、医科学の分野において世界に通用する医学研究者を養成することに加えて、研究マインドを併せ持った優れた臨床医を養成することが社会的に強く求められるようになっていきます。

本課程は、研究者育成コースの他に、このような社会的要請に応える目的で、高度臨床医育成コースなど臨床医向けの特色あるコース等を設定し、学生のニーズに応じた科目選択が可能な教育課程の編成を基本方針としています。

2. 医学系研究科医科学専攻博士課程では、SDGsの目標とその達成への理解を促すため、研究科共通科目の「Sustainability science and SDGs（2単位）」を選択科目として学修します。

また、選択必修科目「基礎医科学（3単位）」「応用医科学（3単位）」「臨床医科学（3単位）」「臨床腫瘍学総論（3単位）」の4科目をはじめ、基礎医学・社会医学・臨床医学の各分野授業科目から成る学修を通じて、SDGsの目標「3. すべての人に健康と福祉を」、「4. 質の高い教育をみんなに」、「12. つくる責任 つかう責任」、「17. パートナリーシップで目標を達成しよう」す

すべての達成に資する人材を育成します。

さらに、全ての授業科目において、SDGsの17の目標との対応関係をシラバスに記載します。

2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

1. 必修科目群：全コースの学生が、共通して修得すべき医学、医科学の方法論、倫理等に関する2科目「医学総合研究特論Ⅰ，Ⅱ」を開設しています。
2. 選択必修科目群：コースの学修目的に即して、関連する医学、医療、医科学の知識・概念等を修得できるよう「基礎医科学」「応用医科学」「臨床医科学」「臨床腫瘍学総論」の4科目を設定し、このうち1科目を選択させています。
3. 選択科目群：各コースの学生の多様なニーズに応えられるように、松江キャンパス研究科とも連携開講している「医療のための光工学」、「機能的物質・食品の応用と環境影響」「臨床医学と社会・環境医学への高度情報学・数学の応用」など、医理工農連携プログラムの5科目を含めて、60以上の科目（年度により変動あり）を開設し、学生のニーズに合わせて、5科目以上を自由に選択できるようにしています。

3. 学修成果の評価方法

1. 学修の成果は、シラバスに記載された学修目標、成績評価基準に基づき、試験、レポート等により達成度を評価します。
2. 学位論文審査は公開とし、知識・技能を発展・活用できる能力の修得度によって評価します。
3. 学生の学修成果等をもとに、教育課程を検証します。

<島根大学医学系研究科医科学専攻博士課程学位論文評価基準>

島根大学医学系研究科医科学専攻博士課程における博士論文の審査については、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき以下の基準により評価する。

1. 基本要件

学位論文は、「島根大学における研究活動の不正行為の防止に関する規則」に則して適正に行われた研究に基づき作成し、本人以外の論文、研究の独自性やアイディア、著作権、肖像権等を侵害してはならず、十分な学術的価値と高い独創性を有するものであり、かつ次の要件を満たすものでなければならない。

また、最終公開審査において、学位申請者は、学位申請論文が当該分野における学術的意義、新規性、創造性等を有していること、学位申請者が研究の企画及び推進能力、研究成果の論理的な説明能力、当該分野に関連する高度で幅広い専門的知識、高い倫理性等を有していることを示さなければならない。

1) 領域性

研究は、特定のテーマに関してそれを客観的かつ正当に評価できる専門家集団が存在する領域のもので、自分の研究がこの領域の中でどう位置づけられるか自覚しなければならない。

2) 公益性

研究は、個人的な問題意識ではなく、上記の研究領域の中で共有される意義があるものでなくてはならない。

3) 論証性

当該研究領域の専門家集団に対して、自分の研究テーマ及び方法論が、公的な研究として意義があるものであると自ら示さなければならない。

2. 論文の構成

博士論文は、レフリー制度のある原則として英文学術雑誌に掲載された、あるいは掲載することが確約された研究論文でなければならない。ただし、研究領域等により和文学術雑誌に掲載されることが英文学術雑誌への掲載と同等以上の意義があると認められる場合は、和文雑誌でも可とする。具体的には次の点において評価する。

- 1) 研究課題（に関連する研究領域）に関して、科学的重要性・意義、これまでに解明されている事実、などの背景を適切に論述している。
- 2) 研究課題（に関連する研究領域）に関して、現在どのようなことが問題となっているのか、あるいは、何が解明されていないのかを明確にしている。
- 3) 上記1) 及び2) を踏まえて、本研究では何をどこまで明らかにしようとするのか、明確な研究目的を設定している。

修了認定・学位授与の方針 DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ、卒業生が身につけるべき資質・能力）

医学の専門領域及び関連領域で自立して独創的研究活動を行うに足る高度の研究能力、豊かな学識と人間性を備えた教育、研究の指導的役割を担う人材の育成を図るとともに、医療に求められる高度な専門知識・技術及び研究能力を備えた臨床医の育成を目的とします。

1. 研究者育成コース

医学の専門領域で自立して独創的研究活動を行うに足る高度の研究能力、豊かな学識と人間性を備えた教育、研究の指導的役割を担う人材を養成します。

2. 高度臨床医育成コース

臨床と研究をバランスよく経験し、双方の能力を兼ね備えた高度臨床医を育成し、認定医、専門医の取得可能な人材を養成します。

3. がん専門医療人育成コース

ゲノム医療の推進及びライフステージに応じたがん対策を推進する人材を育成し、各基盤領域の専門医、サブスペシャリティー領域の専門医、がん治療認定医の資格が取得可能な人材を養成します。

4. 総合診療・地域医療コース

総合診療医として高度な専門知識・技能、国際的視野とリサーチマインドを備え、将来、総合診療あるいは地域医療の担い手を指導・育成することができる指導者を養成します。

◆目標としての学修成果

本課程に所定の期間在学し、修了に必要な単位を修得し、以下の能力・資質を修得し、かつ、必要

な研究指導を受けた上で学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、博士（医学）を授与します。

高度臨床医育成コース及びがん専門医療人育成コースの場合は、所属分野の専門医（又は認定医）の取得が必要となります。

1. 自己の研究に関連する分野を中心にした医学，医療，医科学の高度で幅広い専門的知識を修得している。
2. 医学，医療，医科学に対する社会的ニーズを踏まえた学術的意義，創造性等を有する研究を，高い倫理性を備え，社会への責任感を持って遂行できる。
3. 国際的視野とコミュニケーション能力を有し，自己の研究成果を国内外の学会等で発表し，学術雑誌等において当該研究分野または社会に貢献する論文を執筆できる。

◆DPと特に関わりが深いSDGs17の目標（大学院課程を通じた資質・能力の修得が，社会におけるSDGsのゴール達成とどのように関わるか）

1. SDG「3. すべての人に健康と福祉を」

医科学専攻博士課程修了者は，基礎医学・社会医学・臨床医学の各分野において高度な専門知識・技術を修得しており，それらを礎として，人類の健康と福祉に貢献できる基盤を有しています。

2. SDG「4. 質の高い教育をみんなに」

医科学専攻博士課程修了者は，研究，臨床経験に富んだ教員より指導を受け，自身が教導する立場に際しても，適切かつ良質な教育をできる基盤を有しています。

3. SDG「12. つくる責任 つかう責任」

医科学専攻博士課程修了者は，研究内容を発展させた開発に際して，生産者また医療機器を使用する消費者として責任感を持ち，地球の環境と人々の健康を守れるよう行動する基盤を有しています。

4. SDG「17. パートナリーシップで目標を達成しよう」

医科学専攻博士課程修了者は，研究を通して必要な情報・連携を見極め，効果的な公的，官民，市民社会とのパートナーシップをすすめる基盤を有しています。

学 生 募 集 要 項

1 募 集 人 員

医科学専攻博士課程 30人（若干人）

【注】（ ）内は、第2次の募集人員で内数です。

2 出 願 資 格

(1) 一 般 入 試

次の各号のいずれかに該当する者とします。

（令和8年3月末日までに該当する見込みの者を含む。）

- ① 大学の医学，歯学又は修業年限が6年の薬学若しくは獣医学（以下「医学等」という。）を履修する課程を卒業した者
- ② 外国において，学校教育における18年の課程（最終の課程は，医学，歯学，薬学又は獣医学）を修了した者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程（最終の課程は，医学，歯学，薬学又は獣医学）を修了した者
- ③の2 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が5年以上である課程（最終の課程は，医学，歯学，薬学又は獣医学）を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了することを含む。）により，学士の学位に相当する学位を授与された者
- ④ 文部科学大臣の指定した者
 - イ 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し，これらの学部を卒業した者
 - ロ 防衛庁設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者
 - ハ 修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し，30単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた者（学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。）で大学院において，大学の医学，歯学，薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
 - ニ 大学（医学，歯学，薬学又は獣医学を履修する課程を除く。）を卒業し，又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後，大学，研究所等において2年以上研究に従事した者で，大学院において，当該研究の成果等により，大学の医学，歯学，薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- ⑤ 医学等を履修する課程に4年以上在学し，又は外国において学校教育における医学等を履修する課程を含む16年の課程を修了し，大学院において，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- ⑥ 大学院において，個別の入学資格審査により，大学の医学等を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，24歳に達した者

(注意)

- 1 ④のハ、ニ及び⑤、⑥に該当する者は、事前に出願資格審査を行いますので、第1次募集：令和7年8月1日(金)、第2次募集：令和7年11月19日(水)までに医学部事務部学務課(出雲キャンパス)に相談してください。
- 2 外国の大学を卒業した者は、事前確認を行いますので、第1次募集：令和7年8月1日(金)、第2次募集：令和7年11月19日(水)までに医学部事務部学務課(出雲キャンパス)に相談してください。

(2) 社会人入試

前記(1)の各号のいずれかに該当し、入学時に医療関連分野等に1年以上勤務している者又は勤務見込みの者としします。

【例】卒後臨床研修1年目を終了した者あるいは、終了見込みの者も出願が可能です。

3 出願手続

(1) 出願受付期間

区 分	出 願 期 間
第1次募集	令和7年8月18日(月)から令和7年8月22日(金)まで。 窓口受付は9時から17時まで。 なお、郵送による場合も令和7年8月22日(金)必着とします。
第2次募集	令和7年12月15日(月)から令和7年12月19日(金)まで。 窓口受付は9時から17時まで。 なお、郵送による場合も令和7年12月19日(金)必着とします。

(2) 出 願 方 法

出願書類は一括して提出してください。

なお、出願に際しては、あらかじめ研究指導を希望する担当教員に照会の上、出願してください。
担当教員に関することについては、(3)の「照会先」へ問い合わせてください。

(3) 出願書類等提出及び照会先

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
島根大学医学部事務部学務課大学院担当
電話 0853-20-2083
E-mail msa-daigakuin@office.shimane-u.ac.jp

(4) 出 願 書 類 等

提出書類		摘 要
①	入 学 志 願 票	本要項添付の用紙に記入してください。
②	受 験 票 ・ 写 真 票	本要項添付の用紙にそれぞれ氏名を記入の上、写真(上半身、無帽、正面向きとし、出願前3か月以内に撮影したもの)を所定欄に貼付してください。
③	成 績 証 明 書	大学の成績証明書で、出身大学(学部)等の長が作成し厳封したものとしします。 本学医学部を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者は、本学部内で発行手続を行いますので提出を要しません。 大学院修士課程修了者は、大学の成績証明書の他に大学院の成績証明書(当該研究科の長が作成し厳封したもの)を提出してください。 なお、令和8年3月学部卒業(又は修士修了)見込みの者は、出願時点での成績証明書としします。

④	卒 業 証 明 書 等	大学の卒業証明書で、出身大学（学部）等の長が作成し厳封したものとします。 本学医学部を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者は、本学部内で発行手続を行いますので提出を要しません。 大学院修士課程修了者は、大学の卒業証明書の他に大学院の修了証明書を提出してください。 なお、令和8年3月学部卒業（又は修士修了）見込みの者は、卒業（又は修了）見込証明書とします。
⑤	入 学 検 定 料 振 込 金 証 明 書	入学検定料 30,000円 ※災害等により入学検定料免除の特例措置を希望される方は、事前に申請が必要となりますので、本学ホームページ（https://www.shimane-u.ac.jp）の「入試情報」→「お知らせ」→「入学検定料免除について」をご確認ください。 令和8年度島根大学「入学検定料」振込依頼書等用紙の所定欄に必要事項を記入し、銀行・信用金庫・農協等の金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局を利用される場合は、「通帳及び印鑑」が必要です。現金による振込はできません。）で、取扱期間中（第1次募集：令和7年8月12日（火）～令和7年8月22日（金）、第2次募集：令和7年12月8日（月）～令和7年12月19日（金））の窓口取扱時間内（15時00分まで）に同用紙にて、入学検定料30,000円を振り込んでください。（ATM（現金自動預払機）は使用しないでください。）振込手続後、窓口で返却された「Ⅲ票 振込金証明書（島根大学提出用）」を同封してください。 特例措置により検定料免除を許可された場合は、不要です。 なお、以下の場合以外は、納入された入学検定料は、いかなる理由があっても返還することができません。 ①出願書類等を提出したが受理されなかった場合 該当者に連絡しますので、所定の期日までに手続を行ってください。 ②入学検定料を振り込んだが、島根大学に出願しなかった場合 ③入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合 上記②及び③については、本人の申出によって納入された入学検定料を返還することができますので、第1次募集：令和7年8月29日（金）、第2次募集：令和7年12月26日（金）までに財務部経理・調達課出納担当（電話0852-32-6029）（土曜日、日曜日を除く9時から17時までの間）へ連絡してください。 なお、返還の手続を行う際に「Ⅱ票 振込金受取書（志願者保管）」及び「Ⅲ票 振込金証明書（島根大学提出用）」が必要となりますので、大切に保管しておいてください。これらの書類がないと振込事実の確認ができず、返還ができないことがあります。
⑥	推 薦 書 (社会人入試志願者のみ)	本要項添付の用紙にて、勤務先の所属長（又は出身大学、大学院の指導教員）が作成し厳封したものとします。
⑦	研究・臨床経験概要 (社会人入試志願者のみ)	本要項添付の用紙にて作成してください。
⑧	研 究 業 績 目 録 (社会人入試志願者のみ)	本要項添付の用紙にて作成してください。
⑨	返 信 用 封 筒 (受験票送付用)	本要項添付の返信用封筒に、郵便番号、住所、氏名を明記し、620円分の切手を貼付してください。 ※郵便料金は変更になることがあります。
⑩	あ て 名 票 (合格通知書送付用)	本学からの通知が確実に届く郵便番号、住所、氏名を記入してください。
⑪	「在留カード」の写し	外国人の志願者は、「在留カード」の写しを提出してください。
⑫	受 験 許 可 書	大学院に在学中の者及び在職中の者は、所属長の受験許可書（様式自由）を必ず提出してください。（本研究科のHP内募集要項のページに参考様式を掲載しています）

※ 本学大学院研究科修士課程修了者（令和8年3月修了見込みを含む）が2年以内に博士課程に進学する場合は、入学検定料の支払は不要です。

- (注意) ① いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。
 ② 出願書類に不備がある場合は、受理できません。
 ③ その他不明な点があれば前記(3)の「照会先」へ問い合わせてください。

(5) 障がい等を有する志願者との事前相談について

本学大学院に入学を志願する者で、障がい等（視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱、発達障がい等）があり、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願受付開始日の3週間前までに前記(3)の「照会先」へ相談してください。

4 入 試 方 法

海外在住のため、試験日に来学し受験することができない者は、学力検査、口頭試問をインターネットを利用した双方向音声・画像通信により実施します。

(1) 試験日程及び試験場

区 分	試 験 日 程	試 験 場
第1次募集	令和7年10月10日(金)	島根大学医学部 (出雲キャンパス)
第2次募集	令和8年1月30日(金)	

(2) 試験科目等

試験科目等	試 験 時 間
外国語（英語A）	13：30～14：30
外国語（英語B）	14：45～15：45
口 頭 試 問	16：15～

(備考)

- ① 外国語（英語A、英語B）の試験時間において、一般的な語学用辞書（医学専門辞書及び電子辞書は不可）の持込みを許可します。
 ② 口頭試問は、志望する専攻領域について行います。
 ③ 口頭試問の期日は、上記を原則としますが、指定した期日に変更する場合があります。

(3) 配 点

外国語（英語A）	外国語（英語B）	口頭試問
100点	100点	優良可不可による 4段階評価

(4) 合否判定基準

外国語（英語A）、外国語（英語B）を合わせた得点が基準点を満たした場合で、口頭試問の評価も基準を満たした場合に、上位から合格とします。同点の場合は、同順位とします。

(備考)

「医療過疎解消のためのグローバル地域医療学人材育成プログラム」（17ページ）の希望者には、上記入試方法と合わせて研究科長評価を実施し、全てを総合的に評価した上で判断します。

5 合格者発表

区 分	発 表 日 時
第1次募集	令和7年11月10日(月) 11時
第2次募集	令和8年3月6日(金) 11時

合格者本人には合格通知書を郵送します。

なお、電話等による可否の照会には応じません。

また、本学ホームページに合格者の受験番号を速報として掲載しますが、正規には通知書にて確認してください。

ホームページアドレス <https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>

6 入学手続

合格者は、入学手続期間内に入学手続書類等を持参の上、入学手続を行ってください。詳細については、合格通知書送付の際に連絡します。

(1) 入学手続日

令和8年3月6日(金)～令和8年3月12日(木) 9時から17時まで

(2) 入学手続場所

島根大学医学部事務部学務課大学院担当（出雲キャンパス）

(3) 入学料及び授業料

- ① 入学料 282,000円（予定額）

【注意事項】

入学手続時までに入学料の改定が行われた場合は、新入学料が適用されます。

本学大学院研究科修士課程を修了後2年以内に博士課程に進学する場合は、入学料の支払は不要です。

- ② 授業料

授業料は、入学後にお支払いいただくことになります。

- (1) 授業料の額（前期分）267,900円（後期分）267,900円 【年額】535,800円

- (2) 授業料のお支払方法

授業料のお支払は、預貯金口座からの「口座振替」を原則としています。

【注意事項】

入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

7 入試成績の提供

入試成績を、次のとおり提供します。

(1) 提 供 内 容

学力試験の得点及び総合順位（ランク区分）

(2) 申 請 期 間

令和8年5月1日(金)～令和8年5月31日(日)

(3) 申 請 方 法

申請は、医学部事務部学務課大学院担当へ直接来学又は郵送のいずれかの方法で行ってください。

(4) 申請時必要書類

- ① 入試情報提供申請書（次のいずれかの方法により取り寄せてください。）

ア 島根大学ホームページから印刷して使用してください。

イ 医学部事務部学務課大学院担当へ直接来学してください。

ウ 郵送の場合は、返信用封筒（長形3号，12cm×23.5cmの大きさのものに110円分の切手を貼し，郵便番号，住所，氏名を明記したもの）を同封し，「入試情報提供申請書請求」と明記したメモを添えて申し込んでください。※郵便料金は変更になることがあります。

- ② 島根大学受験票

- ③ 返信用封筒（長形3号，12cm×23.5cm）（郵送の場合のみ）

封筒には，必ず申請者本人の住所，氏名，郵便番号を明記し，簡易書留分の切手（460円分）を貼ってください。※郵便料金は変更になることがあります。

(5) 提供の決定通知

提供申請の結果は，入試情報提供申請書の受理後30日以内に入試情報提供通知書により通知します。

(6) 提 供 方 法

郵送又は申請者（受験者）本人に直接文書を交付することにより提供します。なお，直接来学する場合は，本人であることを証明できる書類の提示が必要です。

(7) 申請及び提供場所

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部事務部学務課大学院担当

電話 0853-20-2083

入 学 案 内

1 目 的

医科学専攻博士課程は、医学の専門領域及び関連領域で自立して独創的研究活動を行うに足る高度の研究能力、豊かな学識と人間性を備えた教育、研究の指導的役割を担う人材の育成を図るとともに、医療に求められる高度な専門知識・技術及び研究能力を備えた臨床医の育成を目的とします。

2 修 業 年 限

修業年限は、4年を標準とします。

3 大学院設置基準第14条による教育方法の特例

社会人学生の就学を容易にし、広く社会のニーズに応えるべく、社会人入試枠を設け、社会人に配慮するとともに、大学院設置基準第14条の規定を活用した「昼夜開講制」を導入しています。

4 専攻の概要並びに研究指導教員及び主たる研究内容：令和8年度予定

医科学専攻博士課程

医科学の分野における世界に通用する医学研究者を養成するとともに、研究マインドを併せ持った優れた臨床医を養成することが、社会的に強く求められるようになってきています。本課程は、これらの社会からの要請に応えるため、次の4つのコースを設定し、より自由な科目選択が可能な教育課程の編成を基本方針としています。

1) 研究者育成コース

医学の専門領域で自立して独創的研究活動を行うに足る高度の研究能力、豊かな学識と人間性を備えた教育、研究の指導的役割を担う人材を育成することを目的とし、幅広い概念、専門的知識ならびに方法論を含めた研究遂行能力を修得します。

研究指導教員(所属)	主 たる 研 究 内 容
藤 田 幸 (発 生 生 物 学)	神経回路の形成と修復のメカニズム
藤 谷 昌 司 (神 経 科 学)	神経・筋疾患や難病の病態解明と治療法の開発
岸 博 子 (環 境 生 理 学)	平滑筋の収縮制御機構、質量分析法による血管異常収縮シグナル分子の同定
宮 城 聡 (代 謝 生 化 学)	幹細胞の制御機構とその異常に起因する疾患の理解
加 藤 太 陽 (病 態 生 化 学)	クロマチンとエピジェネティクス制御の研究
和 田 孝 一 郎 (薬 理 学)	生活習慣病の発症メカニズムの解明、及び分子薬理学・病態薬理学を基にした新しい疾患治療法の開発
新 野 大 介 (病 態 病 理 学)	悪性リンパ腫、白血病など血液疾患の分子病理学的検討
川 畑 茂 (器 官 病 理 学)	肺がんなど固形腫瘍の発生メカニズムの解明、新規バイオマーカーの探索(病理組織学的・分子病理学的解析)

研究指導教員(所属)	主たる研究内容
飯 笹 久 (微生物学)	ウイルスに由来する非翻訳RNAの生理学的意義の解明
齊 藤 泰 之 (免疫学)	がん免疫・自己免疫に関する基礎的研究
竹 下 治 男 (法医学)	ヒト体液中の遺伝マーカーの開発・応用を利用した法医鑑識科学的研究
(環境保健医学)	未定
津 本 周 作 (医療情報学)	医療情報学, 特に医療分野への人工知能, データ工学, 統計学的手法の応用, ラフ集合論, データマイニング, 医療画像処理, 医療設備学 (特に通信環境と電気・電磁環境), 医療管理学 (医療安全管理, 医療機器の動作安全管理)
金 崎 啓 造 (内科学第一)	糖代謝・内分泌代謝異常が惹起する臓器障害の分子機構解明に関する基礎的・臨床的研究
石 原 俊 治 (内科学第二)	炎症性腸疾患の病態の解明と診断・治療に関する基礎的, 臨床的研究
長 井 篤 (内科学第三)	細胞再生医療研究, 神経幹細胞の分化・増殖機構に関する研究, アミロイドーシスの発症機構と診断に関する研究, 生活習慣病の疫学研究
一 瀬 邦 弘 (膠原病内科)	免疫代謝異常が引き起こす膠原病・リウマチ性疾患の病態解明と診断および治療に関する基礎的, 臨床的研究
(内科学第四)	未定
神 田 武 志 (腎臓内科)	生活習慣, 加齢により惹起される慢性腎臓病の基礎的, 臨床的研究
(呼吸器・臨床腫瘍学)	未定
鈴 木 律 朗 (血液・腫瘍内科学)	遺伝子及びゲノム解析を通じた血液腫瘍の病態解明とエビデンスに基づいた新規治療法の開発
山 崎 修 (皮膚科学)	1. メラノーマの複合免疫療法の研究 2. 皮膚細菌感染症における黄色ブドウ球菌毒素の研究
竹 谷 健 (小児科学)	1. iPS細胞を用いた希少難病疾患の病態解明, 創薬研究 2. 間葉系幹細胞などを用いた再生医療研究 3. 小児がんの病態解明
日 高 匡 章 (消化器・総合外科学)	肝胆膵外科・移植外科・再生医療に関する研究
山 崎 和 裕 (循環器外科学)	心筋・血管・臓器保護 心不全に対する外科治療 希少疾患・複数科が関わる症例の治療法 移植時における循環補助の検討
山 根 正 修 (呼吸器外科学)	胸部悪性腫瘍に関する臨床研究, 急性肺障害における遺伝子, 分子学的メカニズムの研究, 肺移植後拒絶反応に関する研究
角 舎 学 行 (乳腺外科学)	乳癌患者組織から培養した乳癌幹細胞の情報に基づいた治療戦略
内 尾 祐 司 (整形外科学)	運動器の損傷と修復及び再生
林 健 太 郎 (脳神経外科学)	血液脳関門, 動脈硬化プラークの病態, 急性期脳梗塞の画像評価と再開通療法, くも膜下出血後の脳血管攣縮

研究指導教員(所属)	主 たる 研 究 内 容
和 田 耕 一 郎 (泌 尿 器 科 学)	腎移植, 泌尿器腫瘍の診断と治療, 泌尿器感染症, 尿路結石症
稲 垣 正 俊 (精 神 医 学)	精神障害の病態解明と効果的な介入法の開発
(産 科 婦 人 科 学)	未定
(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)	未定
谷 戸 正 樹 (眼 科 学)	眼科領域疾患の病態解明・診断治療法開発に関する基礎・臨床研究
楯 靖 (放 射 線 医 学)	放射線画像解析に関する研究
(麻 酔 科 学)	未定
管 野 貴 浩 (歯 科 口 腔 外 科 学)	顎骨および口腔再生治療に関する分子生物学的解析研究 新規生体材料と幹細胞を用いた顎骨再生療法の開発 口腔機能と口腔ケアによる全身との関連性に関する研究
(救 急 医 学)	未定
渡 部 広 明 (Acute Care Surgery)	重症外傷及び急性腹症患者のdamage control surgeryに関する研究 重症外傷及び急性腹症における循環モニタリングに関する研究 重症外傷患者における循環生理学に関する研究
馬 庭 壯 吉 (リハビリテーション医学)	整形外科疾患のリハビリテーション 内部障害のリハビリテーション
(地域医療教育学)	未定
佐 野 千 晶 (地域医療支援学)	地域シーズをコアとした地域医療に関する研究 医師のキャリア教育理論に関する研究 慢性感染症の免疫学的研究
牧 石 徹 也 (総 合 医 療 学)	地域医療における総合医のあり方及びその育成に関する研究 医療過疎地域における効果的な医療支援システムの研究 医師不足地域でのコミュニティ・ヘルスケア向上に関する研究 医療格差が健康におよぼす影響に関する研究
田 村 研 治 (先端がん治療センター)	・新規抗悪性腫瘍薬の効果予測バイオマーカーの研究 ・ゲノム医療を推進する新規遺伝子パネルの研究 ・膵臓がんに対する遺伝子異常と治療薬の開発研究
林 田 健 志 (形 成 外 科)	・創傷の再生医療に関する研究 ・リンパ管, リンパ浮腫の再生医療に関する研究
中 田 朋 宏 (小児心臓血管外科)	先天性心疾患に対する外科治療に関する研究 小児心臓外科手術における術中評価に関する研究 先天性心疾患における画像診断, 血管系及び気管の奇形に関する研究
大 嶋 直 樹 (卒後臨床研修センター)	・消化器疾患(特に消化管の炎症性疾患)の病態の解明と診断・治療に関する基礎的, 臨床的研究 ・医学卒後教育におけるキャリア形成の在り方に関する研究
深 見 達 弥 (医療安全管理部)	1. 医療の質を測定し, 改善につなげる科学的手法の研究 2. 重大医療事故調査, 分析の研究 など
山 本 寛 斉 (臨床遺伝・ゲノム医療センター)	・胸部悪性腫瘍におけるゲノム異常の探索と発癌機構・薬剤耐性機構の分子生物学的解明及び臨床への還元 ・がん遺伝子パネル検査を実施した症例のデータを活用した研究

研究指導教員(所属)	主たる研究内容
廣井直樹 (病院医学教育センター)	早期臨床体験教育が学修意欲の向上に及ぼす影響に関する研究 パフォーマンス試験における映像を用いた評価の信頼性と妥当性に関する研究 マルチメディア試験の開発とその有効性に関する研究
矢野貴久 (薬剤部)	医薬品の有効性・安全性の最適化と個別化薬物治療に関する研究
岩下義明 (地域未来協創本部) (地域医学共同研究部門)	産学連携・地域連携に伴う研究 特に電気インピーダンス測定法を用いた機器の研究開発 救急・集中治療医学一般
(生体情報・RI実験部門)	未定

2) 高度臨床医育成コース

高度臨床医育成コースは、臨床と研究をバランスよく経験させ、双方の能力を兼ね備えた高度臨床医を育成するもので、認定医、専門医の取得を目的とし、病態生理、診断、治療、予防、手術技法、医療統計など高度な臨床医学の知識、技能、倫理観及び臨床研究の遂行能力を修得します。

分野	研究指導教員	主たる研究内容
内科学	金崎啓造 石原俊 長井篤 一瀬弘 一瀬志 神田郎 鈴木律	内科領域における各種疾患の病態解明とその臨床応用、放射線やMR、内視鏡や超音波等を用いた診断治療法の開発、リハビリテーションや再生医療、QOL評価法の開発 下記の内科領域における各種の臨床的研究 内分泌代謝疾患、糖尿病、骨粗鬆症、生活習慣病、 血液疾患、造血器悪性腫瘍や癌の治療、造血幹細胞移植術、 消化器疾患、肝疾患 脳血管障害、神経内科疾患、膠原病、免疫疾患、 腎臓疾患、呼吸器疾患、 動脈硬化、循環器疾患 (取得専門医) 認定内科専門医、内分泌代謝科専門医、糖尿病専門医、血液専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、超音波専門医、肝臓学会専門医、神経学会専門医、老年病専門医、脳卒中専門医、リウマチ専門医、腎臓専門医、透析専門医、呼吸器専門医、気管支鏡専門医、アレルギー学会専門医、感染症専門医、循環器専門医、消化管学会専門医等
皮膚科学	山崎修	皮膚悪性腫瘍、皮膚外科学、皮膚細菌感染症
小児科学	竹谷健	小児科各領域（神経、先天異常、循環器、血液腫瘍、免疫アレルギー、内分泌、感染症、呼吸器、腎臓、消化器、新生児等）の疾患の診療および小児保健活動を通じて、疾患の病態、病因解析、治療法向上、予防法の開発に関連する臨床研究を行う。 (取得専門医) 日本小児科学会専門医等

分野	研究指導教員	主たる研究内容
外科学	日高山角中 高崎根舍田 匡和正学朋 章裕修行宏	外科領域における各種疾患の診断法，手術法，治療法の開発。術後追跡調査の評価法 胃・食道・大腸・肛門疾患 肝臓・膵臓疾患 内分泌・乳腺疾患 小児の外科的疾患 循環器疾患 呼吸器疾患 (取得専門医) 消化器外科専門医，小児外科専門医，大腸肛門病学会専門医，心臓血管外科専門医，呼吸器外科専門医等
整形外科	内尾祐司	膝関節固有感覚獲得のための新しいリハビリテーション法の開発，関節外科及び脊椎外科領域における最小侵襲手術法の開発，新しい腱縫合法の開発。骨スクリューによる骨軟骨骨折治療法の開発，変形性膝関節症の超早期診断，再生医学 (取得専門医) 日本整形外科学会専門医等
脳神経科学	林健太郎	脳卒中診療，脳神経血管内治療，血液脳関門の研究，頸動脈プラークの研究 (取得専門医) 日本脳神経外科専門医・指導医，日本脳神経血管内治療専門医・指導医，脳卒中学会専門医・指導医
泌尿器科学	和田耕一郎	腎移植，泌尿器腫瘍の診断と治療，泌尿器感染症，尿路結石症
精神医学	稲垣正俊	精神科薬物・心理社会的介入法の開発 (取得専門医) 日本精神神経学会専門医・指導医等
産科婦人科学	未定	未定
眼科学	谷戸正樹	眼科領域の疾患（緑内障，網膜硝子体疾患，白内障，角膜疾患，斜視弱視，ブドウ膜炎，眼部腫瘍等）に関する，診断法，薬物治療法，手術治療法の開発 (取得専門医) 眼科専門医
放射線医学	楫靖	放射線画像解析に関する研究
麻酔科学	未定	未定
歯科口腔科学	管野貴浩	・新規生体材料と幹細胞を用いた顎骨再生療法の開発 ・顎口腔機能と形態を温存した口腔癌の切除と再建 ・口腔機能と口腔ケアによる全身との関連性に関する研究 (取得専門医) 日本口腔外科学会口腔外科専門医等
救急医学	岩下義明 渡部広明	・救急医療に関する研究一般（特に重症感染症，重症呼吸不全，心肺蘇生法，ICU疫学） ・救急・集中治療領域における医療機器・サービスの研究開発（特に電気インピーダンス測定法を用いたもの） ・救急医療と地域医療の融合について ・重症外傷患者における循環生理学の研究，Damage control surgeryの臨床的効果に関する研究，重症外傷における集学的治療戦略効果の検証に関する研究，病院前外傷診療と患者予後に関する研究，Damage control surgeryにおける新たな手技の開発 (取得専門医) 救急科専門医，日本外傷学会専門医

分野	研究指導教員	主たる研究内容
病理学	新野大介 川畑茂	ヒト悪性腫瘍を対象として、画像解析システムや人工知能（AI）による病理形態学的な解析、組織マイクロアレイを用いた免疫組織化学やIn situハイブリダイゼーションによる分子マーカーの解析に基づき、予後因子や治療効果予測因子を解明する研究 (取得専門医) 病理専門医、細胞診専門医、分子病理専門医

3) がん専門医療人育成コース

第4期次世代のがんプロフェッショナル養成プラン～中国・四国がんプロコンソーシアム協議会の内容（地域をつなぐ未来世代のがん専門医療人育成）に基づき、がん治療における「専門医療人」を育成します。医学博士取得を目標とし、同時に、新専門医制度における、基本領域専門医（内科専門医、外科専門医など）、サブスペシャルティ領域の専門医（がん薬物療法専門医、呼吸器内科専門医、呼吸器外科専門医、消化器内科専門医、消化器外科専門医、乳腺外科専門医、血液内科専門医、放射線治療専門医など）取得に必要な知識を得ることが可能です。

本コースでは、以下に示すような人材を育成します。①がん治療に関連する専門医として、地域医療の問題点を把握し、地域において標準的ながん医療を実施し、がん医療の均てん化に貢献できる人材、②がん医療に関する高度な専門知識と技術を有し、多職種・多診療科と連携し、チーム医療の担い手となる人材、③分子標的薬やコンパニオン診断薬、ゲノム医療・遺伝子治療、免疫療法等の創薬を担うことができる人材、④ライフステージ（小児、AYA世代、高齢者）に応じたがん治療を行うことができる人材、⑤腫瘍循環器学、老年腫瘍学など、がん関連学術領域にも精通する人材です。

分野	研究指導教員	主たる研究内容
がん地域医療学	田村研治 (先端がん治療センター・腫瘍内科学) 新野大介 (病態病理学) 川畑茂 (器官病理学)	地域のがん医療の問題点を把握し、地域においても標準的ながん医療を実施し、がん医療の均てん化を目指す研究。特に、地域に多い高齢者がんに対する老年腫瘍学、地域における放射線治療学や病理診断学に関連する研究。
基礎腫瘍学	宮城聡 (生化学) 浦野健 (新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター) 新野大介 (病態病理学) 新金崎啓造 (内科学) 竹谷健 (小児科学) 齊藤泰之 (免疫学) 飯笹久 (微生物学) 矢野貴久 (薬剤部)	腫瘍生化学、腫瘍病理学、腫瘍免疫学、腫瘍遺伝学、がん薬物療法などに関連する基盤研究や橋渡し（トランスレーショナル）研究。
臨床腫瘍学	田村研治 (先端がん治療センター・腫瘍内科学) 鈴木律朗 (血液腫瘍内科学) 楳靖 (放射線医学)	悪性腫瘍の診断、標準的・先進的薬物療法、分子標的薬やコンパニオン診断薬、がんゲノム医療・遺伝子治療・免疫療法等の創薬、造血幹細胞移植やCAR-T療法、放射線画像診断・放射線治療に関連する研究。
	山崎修 (皮膚科学) 竹谷健 (小児科学) 日高匡章 (外科学) 山根正修 (外科学) 菅野貴浩 (歯科口腔外科学)	悪性腫瘍に対する標準的・先進的外科療法、集学的治療戦略（周術期化学療法、放射線化学療法など）、低侵襲・機能温存を可能とする治療開発などに関連する臨床研究。

分野	研究指導教員	主たる研究内容
医療緩和学	稲垣正俊（精神医学） 齊藤洋司（緩和ケア）	サイコオンコロジー，がん緩和医療，緩和的放射線治療や神経ブロック，多職種連携による集学的ながん性疼痛治療，終末期医療などに関連する臨床研究。
学際領域がん関連	田村研治 （先端がん治療センター・腫瘍内科学） 和田耕一郎（泌尿器科学）	がんゲノム医療，遺伝性腫瘍学，腫瘍循環器学，腫瘍腎臓病学，老年腫瘍学など，がん関連学際領域に関連する研究。

4) 総合診療・地域医療コース

総合診療・地域医療コースは，総合診療医としての高度な専門知識・技能を有するとともに国際的視野とリサーチマインドを備え，将来，総合診療あるいは地域医療の担い手を指導・養成することができるリーダー（指導者）を育成することを目的としています。総合診療あるいは地域医療に関連する多くの医療・医学の分野より個別に研究テーマを設定して研究を行い，学位取得を目指します。生活習慣病や加齢と動脈硬化，がん，認知症など地域の医療に密接に関連する疾患についての基礎・臨床研究や疫学研究，または，本学の研究推進プロジェクトである疾病予防研究や生活習慣病等コホート研究と連携した研究とともに，総合診療・地域医療における課題や問題点，日常のケアに関連する臨床研究など，希望に応じたテーマについて研究を行います。

分野	研究指導教員	主たる研究内容
地域医療学・総合診療学	佐野千晶（地域医療支援学）	地域における微生物－ヒト関係のダイナミクス，高齢者の細菌性慢性炎症成立についての免疫学的メカニズム解明と治療法開発に関する基礎的研究

5) 医理工農関連分野の授業科目の設置について

最近の医学医療の進歩は著しく，特に材料のみならず理工学の主要技術が医学医療に広く応用されています。このような観点より，本研究科におきましては医療技術・医療機器開発等を行う上で必要な医学に関する知識や，最新医療を支える医療技術・医療用機器に関する原理や基礎知識を修得するために，平成20年度より総合理工学研究科と連携した「医・理工」関連授業科目を開設しました。さらに平成21年度より，本学の特徴的な研究分野である「水」を含む資源循環型社会の構築に関する研究の視点を加えるため，生物資源科学研究科を含む新たな教員の参加を得て，「医理工農」関連授業科目として内容を強化しました。科目等に関しましては下記にご照会ください。

島根大学医学部事務部学務課大学院担当

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

電話 0853-20-2086

電子メール msa-daigakuin@office.shimane-u.ac.jp

6) 医療過疎解消のためのグローバル地域医療学人材育成プログラムについて

「医療過疎解消のためのグローバル地域医療学人材育成プログラム」では，将来，日本の研究機関，医療機関や企業と連携し，地域医療の研究や実践に地球規模で取り組む人材を育成しています。

- 募集人員 第1次募集 5人程度（うち、外国人留学生を3人程度とする）
第2次募集 5人程度（うち、外国人留学生を3人程度とする）
※注 本プログラムの募集人員は、医科学専攻博士課程募集人員30人の内数です。
- 出願資格 外国人留学生については、「2 出願資格」（5～6ページ）に加えて、以下に該当する者としてします。
- ・ネパール、インド、バングラデシュ、ミャンマー、タイ、ベトナム、インドネシアのいずれかの国籍を持つ者
 - ・1991年4月2日以降に出生した者

入試方法 8ページ記載の入試方法に加えて研究科長評価を行い、全てを総合的に評価した上で判断します。

また、本プログラム希望者は「特別プログラム枠」としての併願扱いとなります。選抜の際は、「特別プログラム枠」の選抜を優先して行い、「特別プログラム枠」において合格とならなかった場合は、一般の出願者として再度選抜の対象となります。

本プログラムに関する詳細は、医学系研究科医科学専攻博士課程のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <https://www.med.shimane-u.ac.jp/graduate/>

5 履 修 方 法

必修科目2単位及び選択必修科目3単位並びに選択科目25単位を含む計30単位以上を修得します。ただし、がん専門医療人育成コースの選択科目は、がん専門医療人育成コース専門科目25単位を含むものとします。また履修科目の選定は、研究指導教員と十分協議して選定します。高度臨床医育成コースにおいては、個々の学生が想定する専門医・認定医は極めて多様であるため、各臨床専門分野の専門家である指導教員が、各学生が取得を念頭に置く専門医・認定医の基準に的確に沿うように個々の専門医・認定医に特化した履修モデルを明示し、十分な相談を行った上で、各指導教員の責任において科目選択を指導します。研究者育成コースについても同様に個々の学生の多様な目的に柔軟に対応する履修モデルを明示し、科目選択を指導します。

6 学 位 授 与

- (1) 学位は、博士（医学）です。
- (2) 博士の学位は、大学院に4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に授与します。ただし、在学期間に関しては、優れた研究実績を上げた者については3年以上在学すれば足りるものとします。
- (3) 高度臨床医育成コース及びがん専門医療人育成コースの場合は、所属分野の専門医（又は認定医）の取得が必要となります。

7 長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有している人などで研究時間が十分に取れず標準の修業年限では修了することが困難な人が、修業年限を超えて長期にわたって計画的に教育課程の履修を行う制度です。

(1) 長期履修を申請することができる人

- ① 職業を有している人
- ② 育児、親族の介護等の特別の事情のある人

(2) 長期履修の期間

長期履修が認められる期間は年単位で、標準の修業年限の2倍の年数を超えることができません。

4年 → 5年～8年

(3) 授業料

授業料は、通常の授業料の年額に標準修業年限を乗じた額を長期履修期間の年数で除した額を毎年納入します。

(通常の年額授業料 × 4年) ÷ (5年～8年) = 長期履修の年額授業料

例1) 5年の長期履修の場合 535,800円 × 4年 ÷ 5年 = 428,640円 (年額)

例2) 6年の長期履修の場合 535,800円 × 4年 ÷ 6年 = 357,200円 (年額)

(4) 申請手続

- ① 申請時期
入学手続期間内
- ② 提出書類
 - ア 長期履修申請書
 - イ 在職証明書 (職業を有している人)
 - ウ その他大学院が必要として求める書類

(5) その他

長期履修を希望される方は、入学手続時にご相談ください。

相談窓口

島根大学医学部事務部学務課大学院担当

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

電話 0853-20-2083

電子メール msa-daigakuin@office.shimane-u.ac.jp

8 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学料については、経済的理由によって納入が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情 (入学前1年以内に、入学する者の学資負担者が死亡し、又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等) によって納入が困難であると認められる者に対して、その全額又は半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度があります。

授業料については、全額又は半額が免除される制度があります。

9 奨学金制度

【日本学生支援機構奨学金】

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由によって修学困難な方には、選考の上、奨学金が

貸与されます。

令和7年度貸与月額

- 第一種奨学金（無利子） 80,000円又は122,000円
- 第二種奨学金（有利子） （年3%を上限とする利息付、在学中は無利息）
50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円
の5種類から貸与額を選択

【渡日前入学許可制度】

医科学専攻博士課程は、渡日前入学許可制度（留学生の入学選考に際し海外から直接応募を受け付け、入学するまでの間一度も応募者を渡日させることなく可否を判定し、入学を許可する制度）の対象となっています。この制度を用いて入学した新入生は月額48,000円の奨学金（学習奨励費給付予約制度（大学推薦））を申請することができます。

10 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中及び通学中等に傷害を被った場合あるいは、他人に対する賠償責任が発生した場合の補償制度で、医学部では学生全員が加入する保険です。

11 個人情報の取扱い

入学志願者・受験者の個人情報については、次のとおり取り扱います。

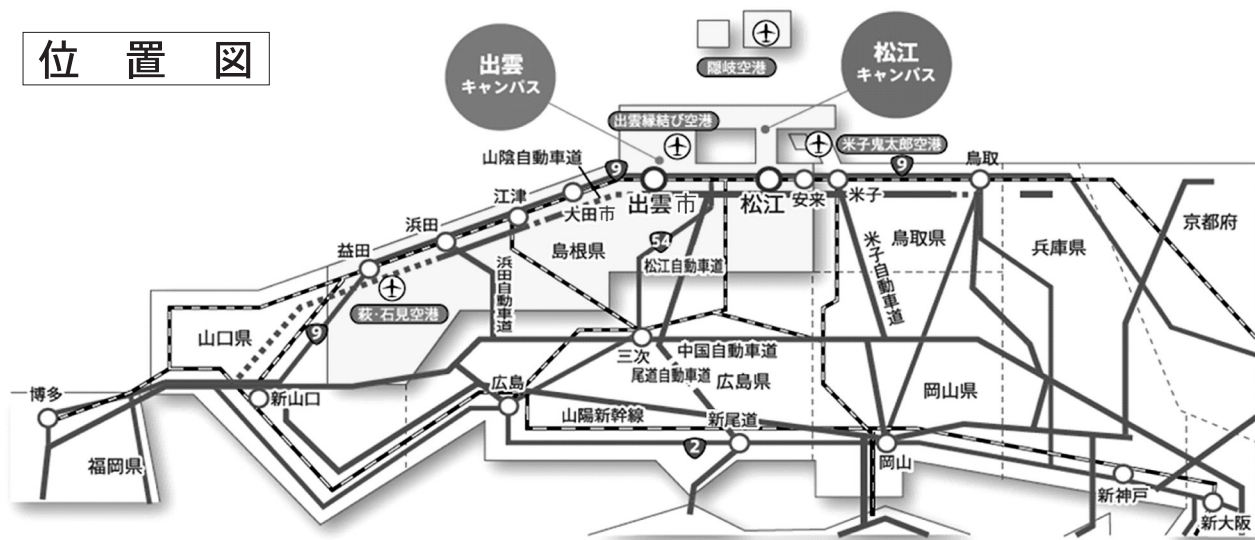
出願書類等に記載された個人情報（氏名、生年月日、性別その他の個人情報等）は、入学者選抜及び合格通知並びに入学手続を行うために利用します。

また、同個人情報は、合格者の入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、授業料等に関する業務及び調査・研究（入試の改善や志望動向の調査・分析等）を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

島根大学における個人情報の取扱いについては下記のとおりです。

https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/personal_data/personal_data02.html

位置図



交通案内

出雲キャンパス	空路 東京 (羽田) → 出雲 ……約 1 時間20分 名古屋 (小牧) → 出雲 ……約 1 時間 大阪 (伊丹) → 出雲 ……約 1 時間 福岡 → 出雲 ……約 1 時間 5 分 ※出雲空港から空港連絡バス出雲市駅行 (約25分) J R 出雲市駅下車	J R 出雲市駅より 一畑バス 出雲市駅・上塩治車庫行 島根大学病院下車 ……約10分 出雲須佐行 島根大学病院下車 (2 番のりば) ……約10分 ※須佐行は、朝夕の便で経由しない便もありますのでご確認ください。
	J R 東京 → 岡山 → 出雲市 ……約 6 時間30分 大阪 → 岡山 → 出雲市 ……約 3 時間50分 岡山 → 出雲市 ……約 3 時間 福岡 → 岡山 → 出雲市 ……約 4 時間50分	徒歩 J R 出雲市駅南口から徒歩約25分
	高速バス 東京 (渋谷) → 出雲 ……約11時間20分 名古屋 → 出雲 ……約10時間 大阪 (梅田) → 出雲 ……約 5 時間35分 京都 → 出雲 ……約 5 時間50分 神戸 (三宮) → 出雲 ……約 5 時間20分 岡山 → 出雲 ……約 4 時間 広島 → 出雲 ……約 3 時間 福岡 → 出雲 ……約 9 時間	



※出雲キャンパスは、松江市内からは1時間以上要しますので、宿泊される場合は出雲市内の宿泊施設を利用してください。

建物配置図

